本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

100件の電話番号やスケジュールを記憶・オートダイアル機能
時刻・時報アラーム／タイマー・1／100秒ストップウオッチ

DATA BANK
フォーンダイアラー

698

使用説明書

698

このたびは、カシオデジタルウオッチをお買いあげくださいましてありがとうございました。末永くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき正しくお取り扱いくださいますようお願い申しあげます。
なお、この使用説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

本機のスピーカーは磁石を使用しておりますので、クレジットカードやフロッピーディスク等の磁気を避けるものには近づけないでください。

ご使用上の注意

防水性
●防汗構造にはなっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●電池交換は、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）

防塵性
●通常の防塵性を備えておりますが、ほこりの多いところでのご使用はお避けください。特に、スピーカーの放音口にほこりや砂が入るとかかりにくくなりますのでご注意ください。

バンド
●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。そのときは、お買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

お手入れのしかた
●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、吸湿性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にご使用ください。
●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損なわれることがあります。

お手入れを怠ると
●「サビ」●ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
●表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビで衣類の袖口を汚すことがあります。
●「かぶれ」●皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。
●特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
●万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

温度
●直射日光が長くあたったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、電池寿命が短くなることがあります。
また、＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

ショック
●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

磁気
●磁気の影響はありません。

薬品類
●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着するとケース、バンドなどに変色や破損を生ずる場合がありますのでご注意ください。

保管
●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふき取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

電池交換について

最初の電池
●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消耗
●電池が消耗しますと電池切れ予告として、時刻・カレンダーモードのときは上部曜日・年表示部に“◇ＢＡＴＴ”と表示され、時刻表示部の左上で“ＢＡＴＴ”が点滅しますので、２週間以内に電池を交換してください。※電池切れ予告中は電子ブザーは鳴りません。

電池交換
●電池交換は必ずお買いあげ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

データの保護について

故障、修理、電池交換等に起因するデータの消失による、損害および逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
なお、大切なデータは備忘録等に控えをとっておいてください。

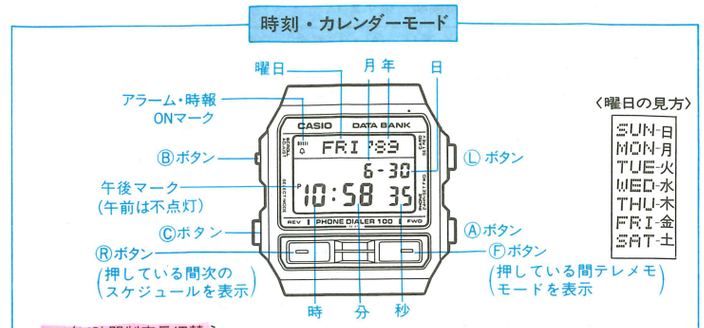
液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。その時はお買いあげ店または最寄りのカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。
実費にて申し受けます。

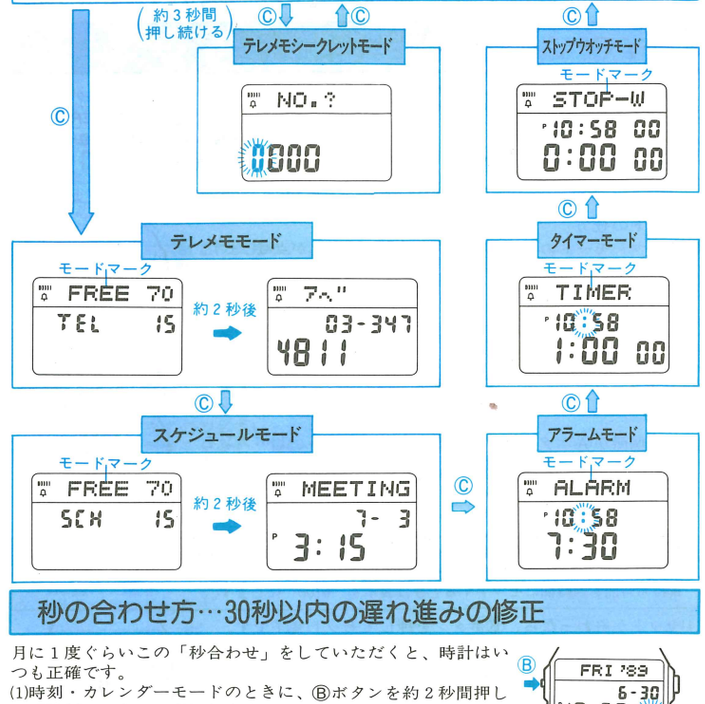
〈ご注意〉
●本機の紛失もしくはクレジット番号が第三者に知れ、他人に使用される可能性があるときは、クレジット通話会社とご相談の上、暗証番号等の変更をお薦めします。
●本機からのクレジット番号等のデータ漏れによる損害および逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

操作のしくみと表示の見方

Ⓒボタンを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。（押すごとに確認音が鳴ります）
※詳しくは各機能の項目をご覧ください。
※各モードでその機能を使用した後、Ⓒボタンを押すと直接時刻・カレンダーモードに戻ります。



★12/24時間制表示切替え
Ⓐボタンを押すごとに12時間制表示（午前／午後）と24時間制表示（24が点灯）とが切り替わります。



秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正

月に１度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

(1)時刻・カレンダーモードのときに、Ⓑボタンを約２秒間押して時刻セットモードにします。
※秒が点滅します。

(2)時報に合わせて、Ⓐボタンを押すと「秒」が点滅しながら00からスタートします。

秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは１分くりあがって、00秒からスタートします。



※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3)Ⓑボタンを押すと時刻・カレンダーモードに戻ります。



時刻・カレンダーの合わせ方

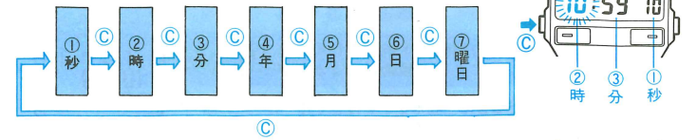
電池交換後などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

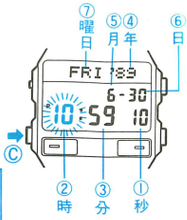
(1)時刻・カレンダーモードのときにⒷボタンを約２秒間押して時刻セットモードにします。

確認 ⇨ “秒”が点滅していますか？



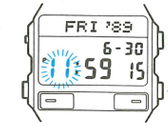
(2)Ⓒボタンを押します。
※セットモードのとき、Ⓒボタンを押すごとに点滅個所が以下の順で移動します。
点滅個所がセット可能ですので、Ⓒボタンでセットしたい個所を選びます。





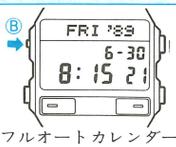
※「年」は西暦下２桁で、1985年～2029年までセットできます。

(3)点滅個所がⒶボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに１つずつ戻ります。それぞれ押し続けると早送りができます。



Ⓒボタンでセットしたい個所を選び、Ⓐ・Ⓛボタンで表示をセットするという操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。
注)「時」のセットのとき午前（不点灯）／午後（Ｐ）、24時間制（24）にご注意ください。

(4)セットが終わったら（どの個所が点滅していても）、Ⓑボタンを押すと点滅が止まり、セット完了です。
※スケジュール機能にデータ入力してあり、年・月・日の変更をした場合は自動ソートが行なわれます。



●カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。
●時刻セットモードで表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に時刻・カレンダー表示に戻ります。

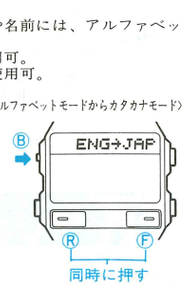
入力文字について

■カタカナモードのセット

本機のテレメモ・スケジュールの各機能で入力するメッセージや名前には、アルファベット・数字・記号の他にカタカナが使えます。
アルファベットモード：アルファベット・数字・記号のみ使用可。
カタカナモード：カタカナ・アルファベット・数字・記号が使用可。
※工場出荷時はアルファベットモードにセットされています。

〈例：アルファベットモードからカタカナモード〉

(1)テレメモ・スケジュールの各機能モードでⒷボタンを約２秒間押して、セットモードにします。
※テレメモ・スケジュールの各機能については各項目をご覧ください。



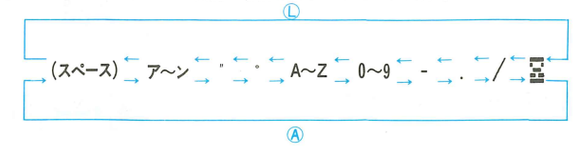
(2)表示が点滅しているときにⒻボタンとⓇボタンを同時に押すとアルファベットモードのときはカタカナモードに、カタカナモードのときはアルファベットモードに切り替わります。
※カタカナモードからアルファベットモードの場合は、表示が“JAP→ENG”となります。

(3)変更表示は約２秒間表示され、自動的に各機能のセットモードの表示に戻ります。

●カタカナモードのときに上記操作を行なうと、アルファベットモードになります。
●一度カタカナモードにセットすれば、再びアルファベットモードに切り替えるか、電池を交換するまで、カタカナモードが保持されます。

●表示文字
カタカナモードおよびアルファベットモードで表示される文字は、各機能のセットモードでⒶボタンまたはⓁボタンを押すごとに次のように表示されます。
※Ⓐ・Ⓛボタンは押し続けると早送りができます。

●テレメモ・スケジュール機能の名前およびメッセージ入力時



●テレメモ機能の数字部入力時



※1 プッシュボタンの「＊」として使います。
※2 プッシュボタンの「＃」として使います。
※3 専用回線やクレジット通話などでポーズ(約3秒間の無音)が必要なとき使います。

●テレメモシークレットモード(クレジットカード番号)での数字部入力時

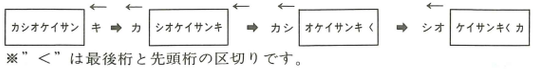


※4 クレジット番号と電話番号をリンクしたい（続けてかける）ときに使います。
"␣"はテレメモシークレットモードでのみ表示されます。

※アルファベットモードのときはカタカナ(ア～ン、゛、゜)は表示されません。
※カタカナモードのときにⒶボタンおよびⓁボタンを押し続けるとカタカナは「ア↔カ↔サ…↔ワ↔"」と早送りされます。
※「キュ」「キョ」等の促音用小文字はありませんので、普通の大文字をお使いください。

■スクロール表示
テレメモ・スケジュール・フリーメモの各機能で入力するメッセージや名前が8文字以上のときは1度に7文字を表示し、約1秒後から表示が右から左に順に送られて表示します。

例：カシオケイサンキ（テレメモモード）



※"＜"は最後桁と先頭桁の区切りです。

メモリー容量の計算方法

本機のデータのメモリー容量はテレメモ（テレメモシークレット）機能とスケジュール機能の合計で最大100件ですが、各機能の名前・電話番号・メッセージの桁数（文字数）によりメモリーできる件数が違います。

〈基本桁数〉
- テレメモ機能：名前部6桁、電話番号部16桁→1単位
- スケジュール機能：メッセージ部10桁→1単位

〈基本桁数に対して〉
- テレメモ機能では名前部に＋7桁以内または電話番号に＋13桁以内追加するごとに、その追加桁数に応じて0.5単位を必要とする。
- スケジュール機能ではメッセージ部に＋7桁以内追加するごとに0.5単位を必要とする。
- クレジット通話機能でも同様な計算式で分割できます。

上記基本桁数を1単位とし、合計で100件までデータをメモリーできます。
例）テレメモを60件とスケジュールを40件メモリーできます。
また、各機能の桁数も名前部最大101桁、電話番号部最大107桁、メッセージ部最大101桁までメモリーできますが、桁数によりメモリーできる件数が異なりますので、次の計算方法により件数を計算することができます。

例1）テレメモ機能で名前部9桁・電話番号部16桁を10件、名前部16桁・電話番号部20桁を8件メモリーした場合。

〈基本桁数〉　〈追加桁数〉

名前部　6桁 / 電話番号部16桁 ＋ 名前部に＋7桁以内 ×10

（1 ＋ 0.5）×10＝15

名前部　6桁 / 電話番号部16桁 ＋ 名前部に＋14桁以内 ＋ 電話番号部に＋13桁以内 ×8

（1 ＋ 1 ＋ 0.5）×8＝20

合計単位　35

この状態では35単位使用しているため、残り65単位までメモリーでき、基本桁数のデータであれば65件までメモリーできます。

例2）上記例1にスケジュール機能でメッセージ15桁を7件メモリーした場合。

〈基本桁数〉　〈追加桁数〉

メッセージ10桁 ＋ メッセージに＋7桁以内 ×7

（1 ＋ 0.5）×7＝10.5

合計単位　45.5

この状態では45.5単位使用しているため、残り54.5単位までメモリーでき、基本桁数のデータでは54件までメモリーできます。

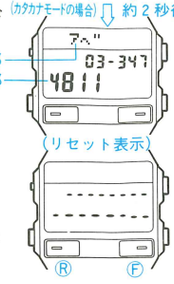
テレメモ機能の使い方…操作のしくみにしたがってⒸボタンを押し、テレメモモードにします。

テレメモ機能は名前と電話番号などを最大100件メモリーできます。メモリーできる件数は名前と電話番号の桁数により異なり、名前6桁、電話番号16桁以内のときにテレメモ機能のみ使用して100件です。
※詳しくは「メモリー容量の計算方法」をご覧ください。

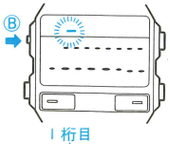
また、Ⓐボタンを押すことにより自動的にプッシュホン式の電話をかけることができます。（「オートダイアル機能」参照）



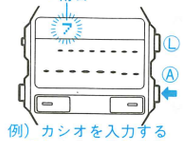
■データの呼び出し（サーチ）
テレメモモードに切り替えた直後は前回テレメモモードで呼び出した内容が表示されます。
以後、Ⓕボタンを押すごとにアイウエオ・アルファベット順に、Ⓡボタンを押すごとに逆アイウエオ・逆アルファベット順に表示されます。(自動編集機能)
電話番号が17桁以上入力してあるときは、Ⓑボタンを押すごとに8桁ずつシフトして表示します。



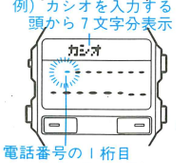
■セットまたは修正のしかた
(1)テレメモモードでⒻまたはⓇボタンを押してリセット表示または訂正したい内容を表示させます。
※データがメモリーいっぱいにセットされているときは、リセット表示とはならず、"◇FULL"と表示されますので、不要なデータを消去してください。(「消去の仕方」参照)



(2)Ⓑボタンを約2秒間押すと名前部1桁目が点滅します。
このときⒸボタンを押すごとに点滅個所が名前部1桁目から9桁目、電話番号部1桁目から14桁目までを1桁ずつ移動します。点滅個所がセット可能です。



(3)ⒶまたはⓁボタンを押してカタカナ・アルファベットおよび番号を表示させます。目的の文字を表示させたらⒸボタンを押して次の桁を点滅させ、ⒶまたはⓁボタンを押して目的の文字を表示させる操作を繰り返し、名前部をセットまたは修正します。
※Ⓐ・Ⓛボタンは押し続けると早送りができます。
※表示文字については「入力文字について」をご覧ください。



【名前部入力上の注意】
アルファベットのO（オー）を数字の0（ゼロ）で代用するなど、形の似た文字を名前部に使うと、自動編集（並べ替え）のときに正しく並べ替えられないことがありますのでご注意ください。

名前部の入力が終わったら、Ⓒボタンを押して電話番号部を点滅させ、ⒶまたはⓁボタンで番号をセットまたは修正します。
※表示文字については「入力文字について」をご覧ください。

(4)セットが終わったらⒷボタンを押すと"自動編集"が行なわれ、メモリーした番号がアルファベット順に並びかえられセット完了です。
※自動編集は名前部の1桁目から6文字までを比較して行なわれ、順序はスペース、カタカナ、A～Z、0～9、ー、．、/の順となります。



●テレメモのセットで表示を点滅させたままにした場合は、2～3分後、自動的にテレメモモードの表示に戻ります。
●連続セット
1度に数件の電話番号をメモリーさせるときは、(3)の操作で番号をセットした後、ⒻまたはⓇボタンを押すとリセット表示またはメモリーされている名前と電話番号が点滅状態で表示されます。このとき(3)の操作をくりかえし行なってメモリーできます。すべてのセットが終わったら、最後にⒷボタンを押します。

■消去の仕方
テレメモモードでⒻまたはⓇボタンを押して消去したい内容を表示させ、Ⓑボタンを押します。このとき(名前部1桁目が点滅)Ⓐ・Ⓛボタンを同時に押すと"◇CLEAR"と約2秒間表示され、表示内容が消去されます。消去後はリセット表示となり新たにセットできます。セットしないときはⒷボタンを押して点滅を止めます。

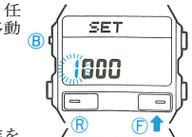


■テレメモシークレットモードについて
テレメモシークレットモードは他人に見られたくない電話番号やクレジットカードの番号などを入力するモードで、暗証番号が一致しないとメモリーしてあるデータを見ることができません。

●暗証番号のセット…まだ暗証番号をセットしていないときは、まず暗証番号をセットします。
(1)時刻・カレンダーモードのときにⒸボタンを約3秒間押し続けると、一度テレメモモードの表示となり、続けてテレメモシークレットモードの暗証番号のセットとなります。
※4桁の数字"□"が表示され、1桁目が点滅します。



(2)Ⓕボタンを押すごとに点滅個所が1つずつ進みますので、任意の数字を表示させ、Ⓡボタンを押すと次の桁に点滅が移動します。

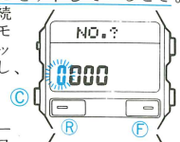


(3)Ⓕボタンで数字を表示させ、Ⓡボタンで次の桁に送る操作を繰り返し、4桁の暗証番号を入力し、さらにⓇボタンを押すと"OK"と表示され、暗証番号のセットは完了です。
※暗証番号は忘れにくい番号にしてください。
暗証番号をセットした後はリセット表示となり、テレメモシークレットモードでの入力となります。
このとき通常のテレメモモードと同じにⒷボタンを約2秒間押してセット状態にし、名前部を点滅させ、新たなデータの入力ができます。
※入力の方法は通常のテレメモ機能を参照してください。



(4)テレメモシークレットモードでの入力が終わったら、Ⓒボタンを押すと時刻・カレンダーモードに戻ります。
※これでテレメモシークレットモードから抜け出したことになります。テレメモシークレットモードにセットしたデータを見たり、新たにデータをセットしたいときは、再び暗証番号を入力しなくてはなりません。

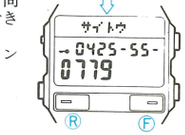
●テレメモシークレットモードに入るには…暗証番号をすでにセットしているとき。
(1)時刻・カレンダーモードのときにⒸボタンを約3秒間押し続けると、一度テレメモモードの表示となり、続けてテレメモシークレットモードで暗証番号をたずねてきますので、セットのときと同様にⒻボタンとⓇボタンで4桁の数字を入力し、さらにⓇボタンを押します。



(2)暗証番号が一致したときは"OK"と表示され、テレメモシークレットモードとなります。もし、入力した数字と暗証番号が一致しないときは"ERROR"と表示され、約2秒後再び暗証番号の入力に戻ります。



(3)テレメモシークレットモードでも通常のテレメモモードと同じにⒻ・ⓇボタンによるサーチやⒷボタンによる入力ができます。
※テレメモシークレットモードから抜け出すときはⒸボタンを押すと時刻・カレンダーモードに戻ります。



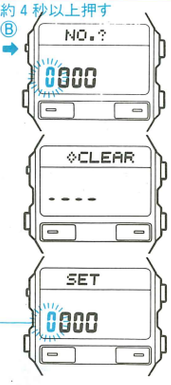
●暗証番号の変更
(1)1度セットした暗証番号を変更したいときは、テレメモシークレットモードで暗証番号の入力状態のときにⒶボタンを押すと現在セットされている暗証番号の入力となりますので、Ⓕ・Ⓡボタンで4桁の数字を表示させ、さらにⓇボタンを押して現在セットされている暗証番号を入力します。



(2)現在セットされている暗証番号を入力すると新たな暗証番号の入力となりますので、新規セットと同様にⒻ・Ⓡボタンで4桁の数字を表示させ、さらにⓇボタンを押すと新たな暗証番号がセットされます。
新たな番号がセットされると、テレメモシークレットモードとなり、暗証番号の変更は完了です。



暗証番号を忘れたときは…
★この操作によりテレメモシークレットモードにメモリーされていたデータは暗証番号とともに全て消去されますので、ご注意ください。
テレメモシークレットモードで暗証番号の入力状態のときに、Ⓑボタンを約4秒以上押し続けると"◇CLEAR"と表示して、暗証番号とテレメモシークレットモードにメモリーされていたデータが消去されますので、新たに暗証番号をセットしてください。
※通常のテレメモモードにメモリーされているデータは消去されません。



1	APPT(appointment)	約束	4	TEL	電話（連絡）
2	DOCTOR	医者（通院）	5	TRAVEL	旅行（外出）
3	MEETING	会議			

プリセットメッセージを使わないときはそのままⓒボタンを押してメッセージ入力に進みます。



(7)メッセージを自分で入力するときはⓒボタンを押してメッセージ1桁目を点滅させ、ⒶまたはⓁボタンでカタカナ、アルファベットまたは数字をセットします。
※表示文字については「入力文字について」をご覧ください。



(8)ⓒボタンを押すごとに入力個所が1桁ずつ移動しますので、Ⓐ・Ⓛボタンで選び、ⓒボタンで移動させながらメッセージを入力します。
※入力個所が行き過ぎた場合は、ⓒボタンを押して月・日・…の順に点滅を送り、訂正個所に合わせます。



(9)セットが終わったらⒷボタンを押すと"自動編集"が行なわれ、現在時刻以降から「月・日・時・分」の近い順に並び替えられ、セット完了です。



●スケジュールのセットで表示を点滅させたままにした場合は、2～3分後、自動的にスケジュールモードの表示に戻ります。

●連続セット

1度に数件のスケジュールをメモリーさせるときは、(8)の操作でメッセージをセットした後、ⒻまたはⓇボタンを押すとリセット表示またはメモリーされている月が点滅状態で表示されます。このとき(2)～(8)の操作をくりかえし行なってメモリーできます。すべてのセットが終わったら、最後にⒷボタンを押します。

●スケジュールの報知方法

基本時計(時刻・カレンダーモード)の月日・時刻とスケジュールの月日・時刻が一致したときは、メッセージと電子ブザー(20秒間)で報知します。
※メッセージが8文字以上入力されているときは、右から左に流れて(スクロール)表示されます。(「スクロール表示」参照)



●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるにはⓁⒶⓒⒻⓇのいずれかのボタンを押します。
※メッセージの表示は20秒間続きます。

●モニターアラーム

スケジュールモードでⒶボタンを押し続けると、電子ブザーが鳴ります。

■消去の仕方

スケジュールモードでⒻボタンまたはⓇボタンを押して消去したい内容を表示させ、Ⓑボタンを押します。このとき（表示が点滅）Ⓐ・Ⓛボタンを同時に押すと"◇ＣＬＥＡＲ"と約2秒間表示され、表示内容が消去されます。消去後はリセット表示となり新たにセットできます。セットしないときはⒷボタンを押します。



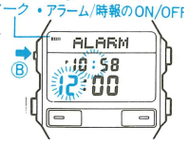
アラームの使い方…操作のしくみにしたがってⓒボタンを押し、アラームモードにします。

アラームは分単位で時・分がセットでき、セット時刻になると20秒間電子ブザーで知らせてくれます。
また、毎正時(00分のとき)を"ピッピッ"と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。
※時刻アラーム・時報とも「時刻・カレンダー表示」で表示される時間にしたがいます。



●セットの仕方

(1)アラームモードでⒷボタンを押すと「時」が点滅し、アラームONマークが点灯します。



(2)ⓒボタンを押すごとに点滅個所が「時」と「分」を移動します。



(3)点滅個所がⒶボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに1つずつ戻ります。それぞれ押し続けると早送りができます。
注)「時」のセットのとき午前(不点灯)／午後(Ｐ)にご注意ください。
注) 基本時計の時刻表示を24時間制表示にしているときはアラーム時刻のセットも自動的に24時間制となります。



ⓒボタンでセットしたい個所を選び、Ⓐ・Ⓛボタンで表示をセットするという操作をくりかえし行ない、時・分を合わせてください。

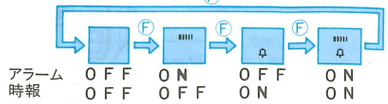
(4)セットが終わりましたら、Ⓑボタンを押してセット完了です。



●アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的にアラームモードの表示に戻ります。

●アラーム・時報のON/OFF

アラームモードのとき、Ⓕボタンを押すごとにアラームONマーク( ))))))、時報ONマーク(🔔)が点灯・不点灯をくりかえします。アラームONマークまたは時報ONマークが点灯しているときに各々鳴ります。



●鳴っている電子ブザーを止めるには

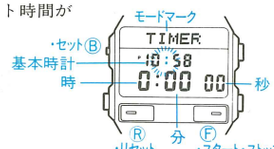
鳴っている電子ブザーを止めるにはⓁⒶⓒⓇⒻのいずれかのボタンを押します。

●モニターアラーム

アラームモードでⒶボタンを押し続けると、電子ブザーが鳴ります。

タイマーの使い方…操作のしくみにしたがってⓒボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは分単位で最大24時間までセットでき、セット時間が経過すると10秒間電子ブザーが鳴ります。



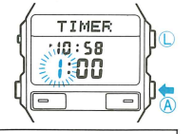
●セットの仕方

(1)タイマーモードのときにⒷボタンを押すと「時」が点滅します。



(2)ⓒボタンを押すごとに点滅個所が「時」と「分」を移動します。

(3)点滅個所がⒶボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに1つずつ戻ります。それぞれ押し続けると早送りができます。



ⓒボタンでセットしたい個所を選び、Ⓐ・Ⓛボタンで表示をセットするという操作をくりかえし行ない、時・分を合わせてください。
※持ち時間を24時間にセットするときは表示を"0:00"にします。

(4)セットが終わったら、Ⓑボタンを押してセット完了です。
Ⓕボタンを押すと減算計測を開始し、残り時間を1秒単位で表示します。
※操作確認音が鳴ります。



●ロスタイムがある場合は

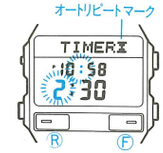
減算計測中、Ⓕボタンはスタート／ストップボタンとなり、減算計測をストップさせることができます。

●リピート（繰り返し）計測

タイムアップ後(残り時間0)、計測前にセットした時間を表示しますので、同じ時間を何回も計測するときに便利です。計測の途中で最初からやり直すときは、Ⓕボタンを押して計測ストップ後Ⓡボタンを押します。

●オートリピート機能（自動繰り返し計測）

持ち時間のセットのとき(表示が点滅中)、Ⓕボタンを押すごとにオートリピートマーク" 🔁 "が点灯・不点灯を繰り返します。オートリピート計測ではタイムアップ後も続けて計測前にセットした時間を繰り返し計測します。



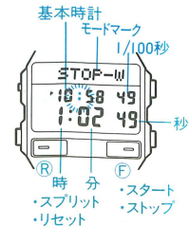
●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるにはⓁⒶⓒⓇⒻいずれかのボタンを押します。

●タイマーセット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的にタイマーモードの表示に戻ります。

ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがってⓒボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99(24時間計)まで計測でき、以後自動的に0に戻って計測し続けます。



★計測のしかた

Ⓕボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。計測中Ⓡボタンを押すと表示は止まりますが内部では計測を続けるスプリット計測となります。("SPLIT"表示)
Ⓕ・Ⓡボタンとも押すと操作確認音が鳴ります。

●通常の計測

Ⓕ スタート → Ⓕ ストップ → Ⓡ リセット

※積算計測…ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート(Ⓕボタンを押す)すれば表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓕ スタート → Ⓡ スプリット計測 → Ⓡ スプリット解除 → Ⓕ ストップ → Ⓡ リセット

●1着・2着のタイム計測

Ⓕ スタート → Ⓡ 1着がゴール(1着タイム表示) → Ⓡ 2着がゴール → Ⓡ 2着タイム表示 → Ⓡ リセット

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±15秒以内
表示方式：ＦＥ型液晶デジタル表示
基本機能：時刻表示＝時・分・秒・午前／午後(Ｐ)／24時間制表示(24)
カレンダー表示＝年・月・日・曜日　フルオートカレンダー(1985年～2029年)
テレメモ機能：電話番号などを最大100件までメモリー(名前部最大101文字、電話番号部最大107桁)、テレメモシークレット機能、自動ソート機能、オートダイアル機能(プッシュボタン式電話によるプッシュ音自動送信)、音圧調整機能、スキップ機能
スケジュール機能：1年分のスケジュールを最大100件までメモリー(メッセージ最大101文字、月・日・時・分、プリセットメッセージ5種類)
※メモリー件数は標準文字数のときテレメモ機能とスケジュール機能の件数の合計で最大100件までで、文字数によっては合計で100件にならない場合があります。
アラーム機能：時刻アラーム　セット単位＝分　電子ブザー＝20秒間
時報　毎正時に2回電子ブザーで報時
タイマー機能：計測単位＝1秒　セット単位＝分　電子ブザー＝10秒間
計測範囲＝24時間　計測機能＝通常計測・ロスタイム計測・オートリピート計測
ストップウオッチ機能：計測単位＝＝1/100秒　計測範囲＝23時間59分59秒99(24時間計)
計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能(±30秒アジャスト)、アラームセット機能、タイマーセット機能、タイマーオートリピートセット機能、テレメモセット機能、スケジュールセット機能
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12／24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ワンチップC/MOS-LSI
使用電池：ＣＲ－1620(電池別途販売)
※電池はカシオ製電池またはカシオ指定電池をお使いください。
電池寿命：約2年…電池切れ予告機能付
(1日当り、電子ブザーを20秒、オートダイアルを番号10桁で2回使用した場合)

《認定について》
当製品は、電気通信事業法に基づいた技術的条件適合認定機器です。
認定番号　Ｏ88－Ｎ017－0

カシオ計算機株式会社
RE9703-003630A

■クレジット通話機能(テレメモシークレットモード内)

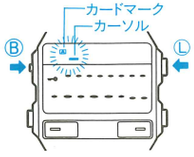
クレジット通話機能は通常のテレメモ機能とは別にクレジット通話専用のメモリー（クレジットエリア）を２本（Ⓐ・Ⓑ）持ち、各々カード名称等13文字と番号29桁のデータをメモリーすることができます。
※カード名称等の文字数と番号の桁数はクレジットエリア内で＋７文字または＋13桁単位で分割できます。（「メモリー容量の計算方法」を参照してください。）
クレジット通話機能にクレジット番号をメモリーしておけば、ワンタッチでクレジット番号に続けて相手先の電話番号をかけることができます。

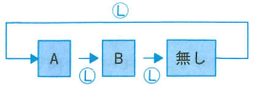
●クレジット番号入力の仕方

クレジット番号の入力はテレメモシークレットモードで行ないます。
※テレメモシークレットモードになるための暗証番号の入力等については「テレメモシークレットモードについて」をご覧ください。
★クレジット通話の会社番号や暗証番号、入力の順番は各会社ごとに異なりますので、以下の入力例はあくまでも参考とし、お使いになるクレジット通話の番号に合わせて入力してください。
〈入力例〉
クレジットの名称：カシオツウシン（カシオ通信）
番号：(会社番号)(種類)　(クレジット番号)　(暗証番号)
０１２３－４４－０３－３４７－４６７５－１２３４＃－(相手電話番号)
↳アナウンスを聞く(約６秒)

〈準備〉
①アナウンスを聞く等、次の番号をかけるまで時間があるときは、“Ｐ”(ポーズ)を入れておきます。“Ｐ”１つで約３秒間待機しますので、６秒のときは２つ入れます。
※アナウンスを聞くなどの時間は、前もって実際にはかってからその時間に合わせて“Ｐ”を入れてください。
②プッシュボタンの“＃”は“＝”を使います。
③相手電話番号は通常のテレメモモードで選びますので、“␣”を入れておきます。
このようにして上記番号を入力用に置き換えると次のようになります。
０１２３－４４－ＰＰ－０３－３４７－４６７５－１２３４＝－␣
↳ポーズ２つで約６秒間待機　↑＃　↑相手電話番号が入る

〈操作手順〉
(1)テレメモシークレットモードでⓁボタンを押すごとにクレジットカードマーク(Ⓐまたは Ⓑ)が表示されますので、入力したいカードマークを表示させた後１秒以内にⒷボタンを押すとカーソル（下段）およびクレジットカードマーク(Ⓐまたは Ⓑ)が点滅し、クレジットの名称入力となります。





●Ⓑボタンを押した後にクレジットカードマーク（Ⓐまたは Ⓑ）が点滅せず、カーソルのみが点滅しているときは、クレジット番号の入力ではなく通常のテレメモシークレットモードですので、もう一度Ⓑボタンを押して点滅を止めた後、(1)の操作から繰り返してください。

(2)クレジットの名称と番号の入力は通常のテレメモモードでの入力と同じで、Ⓐ・Ⓛボタンで文字を表示させ、Ⓒボタンで次の桁に送る操作を繰り返し、名称と番号を入力します。



(3)名称と番号の入力が終わりましたら、Ⓑボタンを押すとテレメモシークレットモードの表示に戻ります。



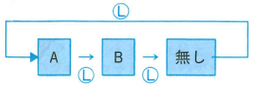
●クレジットのセットで表示を点滅させたままにした場合は、２～３分後、自動的にテレメモシークレットモードの表示に戻ります。
●クレジットの名称および番号の訂正は、上記操作手順と同様に入力状態にしてからⒸボタンで点滅を訂正したい文字または数字に合わせ、Ⓐ・Ⓛボタンで訂正したい文字を表示させて行ないます。
●カード番号は第三者に見られないようにテレメモシークレットモードでのみ入力・訂正・確認ができるようになっています。また、番号は始めから16桁しか表示しませんので、17桁以降を見たいときは入力状態にしてから確認してください。

●クレジット通話の使い方

クレジット通話は通常のテレメモモードでオートダイアル機能を使って行ないます。
※オートダイアル機能の詳しい説明やご使用上の注意については「オートダイアル機能について」をご覧ください。
(1)テレメモモードでⒻ・Ⓡボタンでかけたい相手先の電話番号をサーチします。

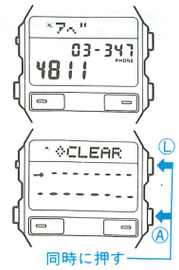


②Ⓛボタンを押してクレジットカードマーク（Ⓐまたは Ⓑ）を選びます。





(3)Ⓐボタンを押すと約３秒後にテレメモシークレットモードでメモリーしたクレジット番号といっしょに表示されている番号のプッシュ音が鳴り、電話をかけることができます。



●クレジットカードデータの消去

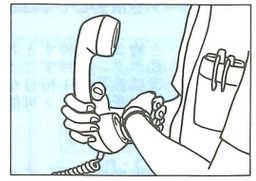
テレメモシークレットモードでⓁボタンで消去したいクレジットカードマーク(Ⓐまたは Ⓑ)を表示させ、続いてⒷボタンを押してクレジット番号の入力状態にします。このとき(名前部１桁目が点滅)Ⓐ・Ⓛボタンを同時に押すと“◇CLEAR”と約２秒間表示され、表示されていたクレジットの名前と番号が消去されます。消去後は入力状態となりますので、新たにセットできます。セットしないときはⒷボタンを押して点滅を止めます。

■オートダイアル機能について

オートダイアル機能とは、テレメモモードでⒻ・Ⓡボタンによりサーチした電話番号をⒶボタンを押すだけで自動的に相手先に電話がかけられる便利な機能です。また、テレメモシークレットエリアでメモリーした電話番号も、暗証番号を入力して表示させれば同様にかけられます。
本機は、プッシュ回線用プッシュボタン式電話専用ですので、ご使用前にプッシュ回線であることを確認してください。

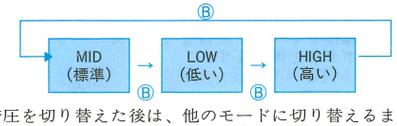
●受話器とのセット方法

(1)テレメモモードで相手先の電話番号をⒻ・Ⓡボタンによりサーチします。
(2)電話の受話器を持ち上げて、本機をつけている腕と反対側の腕で持ちます。
(3)Ⓐボタンを押し、受話器を垂直に立て、本機のスピーカーを受話器の送話口に合わせて密着させます。Ⓐボタンを押すと“PHONE”が点灯し約３秒後にプッシュ音が鳴ります。
※プッシュ音発信中は本機と送話口がズレないようにご注意ください。プッシュ音が確実に送話口に伝わりません。

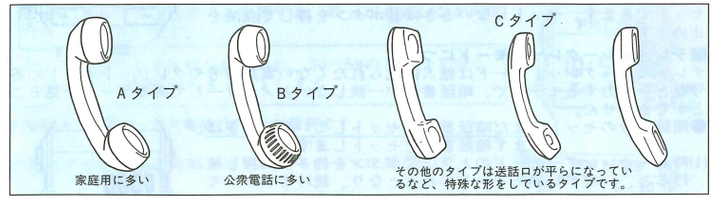


●ご使用上の注意
●本機はプッシュ回線用プッシュボタン式電話機でのみご利用いただけます。（ダイアル式電話機は不可）
●形状がプッシュボタン式でも、ダイアル回線のプッシュボタン式電話機では使用できません。事前にプッシュボタンを押して「ピッ、ポッ、パッ…」のように鳴ることをご確認ください。
●本機は防水時計ではありませんので、水に触れるご使用はお避けください。スピーカーの報音口に水が入ると故障の原因になります。
なお、報音口は防塵用の不織布で保護されていますので、万一不織布が濡れた場合は一時的にかかりにくくなりますが、乾けば元に戻ります。
●送話口が傷んでいたり汚れているもの、配線が切れているもの、電話カバーや芳香ブタなど送話口との間に遮へいがあるものは、かかりにくくなります。
●駅のホーム、ガード下など騒音の多い所ではかかりにくくなりますので、なるべく騒音の少ない所でかけるか、騒音を遮へいするようにしてかけてください。
●もし、電話がかからなかった場合は、いったん電話を切って、かけなおす前に必ず電話機の発信音を確認した後、再操作してください。電話を切らない場合は間違い電話のもととなりますので必ずいったん切ってから再操作してください。
●電池寿命が近づいてくると、電話がかかりにくくなりますのでご了承ください。
●音圧調整機能
電話機には様々なタイプがあり、標準の音圧ではかかりにくい場合があります。本機は３段階に音圧を調整できる機能がついていますので、電話機のタイプによりかかりにくいときは、音圧を変えてご使用ください。
音圧調整はテレメモモードまたはテレメモシークレットモードに切り替えた直後は標準音圧(MID)になっており、オートダイアル機能で電話をかけるとき、Ⓐボタンを押した後約３秒以内に続けてⒷボタンを押すと以下の順で音圧が切り替わり、約３秒後に報音されます。





●一度音圧を切り替えた後は、他のモードに切り替えるまで設定した音圧になっていますので、かけ直すときには再度調整する必要はありません。
●電話機のタイプは大きくわけると以下のようになります。



Ａタイプは高音圧（ＨＩＧＨ）でかかる場合が多い。
Ｂタイプは標準音圧（ＭＩＤ）でかかる場合が多い。
Ｃタイプは低音圧（ＬＯＷ）でかかる場合が多い。

●スキップ機能

スキップ機能とは、電話をかける場合市内／市外で不要となる市街局番や、社内電話機などで必要になる“０”発信など、要・不要により使いわける機能です。
スキップ機能は局番の間にある“ー”（ハイフン）により行なわれ、Ⓐボタンを押すごとに最初の“ー”以前の番号が表示上から消え、発信しなくなります。
例）０１２３－４５－６７８９－０１２がメモリーされている場合。
Ⓐボタン１回押し　０１２３－４５－６７８９－０１２
Ⓐボタン２回押し　４５－６７８９－０１２
Ⓐボタン３回押し　６７８９－０１２
Ⓐボタン４回押し　０１２
※発信終了後は消えていた番号が表示されます。

●ポーズ機能

クレジット通話や各種電話サービスを利用するときに、途中何秒間か待機した後に続けて番号を発信する場合があります。このときは“Ｐ”を入れておけば、ポーズ機能により待機することができます。
“Ｐ”は１つにつき約３秒間待機できます。また、いくつも続けて入れられますので、３秒以上待機が必要なときはその秒数分“Ｐ”を入れてください。
例）０１２３Ｐ４５ＰＰ６７８９の場合。
０１２３－約３秒待機－４５－約６秒待機－６７８９　と発信されます。

スケジュール機能の使い方…操作のしくみにしたがってⒸボタンを押し、スケジュールモードにします。

スケジュール機能は月・日・時・分とメッセージを最大100件までメモリーでき、セット日のセット時刻になるとメッセージとともに20秒間電子ブザーが鳴ります。
メモリーできる件数はメッセージの文字数により異なり、メッセージ10文字のときにスケジュール機能のみ使用して100件です。
※詳しくは「メモリー容量の計算方法」をご覧ください。
また、時刻・カレンダーモードではⓇボタンを押している間、現在時刻以降で直近のスケジュールを表示する機能もついています。

●スケジュールのサーチ

スケジュールモードでⒻボタンまたはⓇボタンを押すごとにスケジュールが順次表示されます。
※Ⓕ・Ⓡボタンとも押し続けると早送りができます。



●スケジュールの自動消去

基本時計の日付が更新されるとき、当日の過ぎ去ったスケジュールが自動的に消去されます。

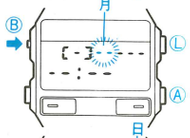


■スケジュールのセットまたは修正のしかた

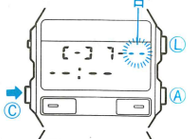
(1)スケジュールモードでⒻまたはⓇボタンを押してリセット表示または訂正したい内容を表示させます。
※データがメモリーいっぱいにセットされているときは、リセット表示とはならず、“◇ＦＵＬＬ”と表示されますので、不要なデータを消去してください。（「消去の仕方」参照）



(2)Ⓑボタンを押すとまず「月」が点滅します。このときⒶボタンを押すと表示が１つ進み、Ⓛボタンを押すと１つ戻りますので、月を合わせます。
※Ⓐ・Ⓛボタンとも押し続けると早送りができます。
※セットできる月日は基本時計の当日から１年間です。
（今日が６月30日の場合は、翌年の６月29日までセット可）



(3)月を合わせ終わったらⒸボタンを押して「日」を点滅させます。「日」も月と同じようにしてⒶボタン、Ⓛボタンで合わせます。
※月のみをセットした場合は「１日」に、日のみをセットした場合は「１月」に自動セットされます。
※月日ともセットしない場合はスケジュールが無効となります。



(4)日を合わせ終わったらⒸボタンを押して「時」を点滅させます。「時」も同じようにしてⒶボタン、Ⓛボタンで合わせますが、午前（不点灯）/午後（Ｐ）に注意してください。
※時刻表示を24時間制表示にしているときはスケジュールモードでも24時間制で表示されます。



(5)時を合わせ終わったらⒸボタンを押して「分」を点滅させます。「分」も同じようにしてⒶボタン、Ⓛボタンで合わせます。
※時分をセットしない場合は午前12時が自動セットされます。



(6)分を合わせ終わったらⒸボタンを押すとプリセットメッセージによるセットとなります。
プリセットメッセージとはよく使う５つのメッセージが組み込まれており、ⒶまたはⓁボタンで1～5の番号を指定するだけで自動的にメッセージを入力できる便利な機能です。

